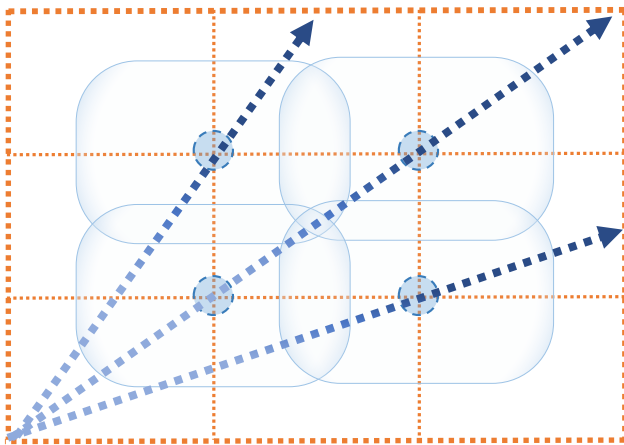


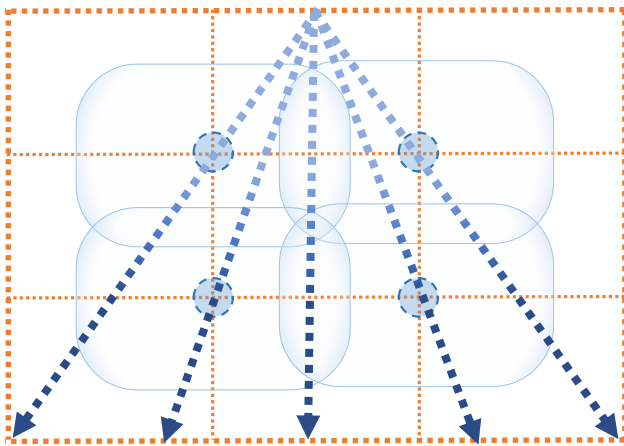
② - 徹底したい基本構図 ・ ・ ・ 徹底した「基本構図」の応用で、完成度を上げる！

写真のベースとなる 基本の構図 - (2) キホン+応用「物指し」

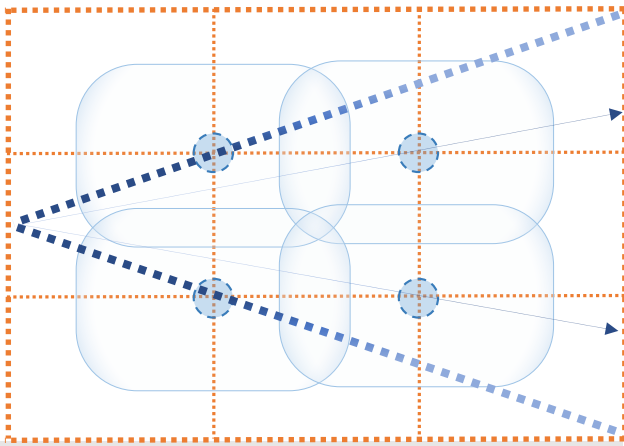
三分割 (中心寄り型) キホン+応用 四分割 (比較対象型)



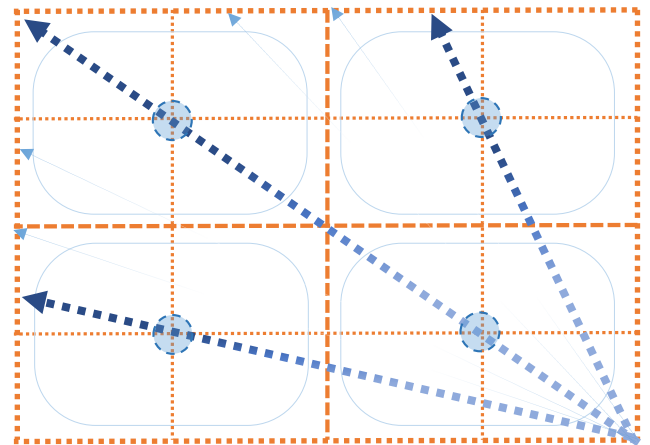
見る人は、瞬時どのように見ているか、見てもらうか！



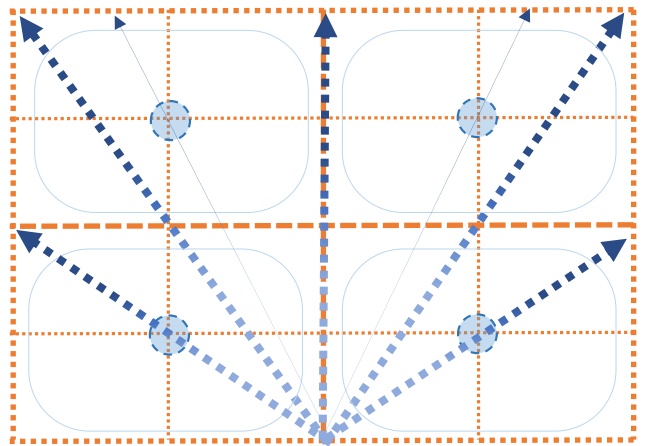
集中や分散、雲、樹木、自然のエネルギーを表現できる。



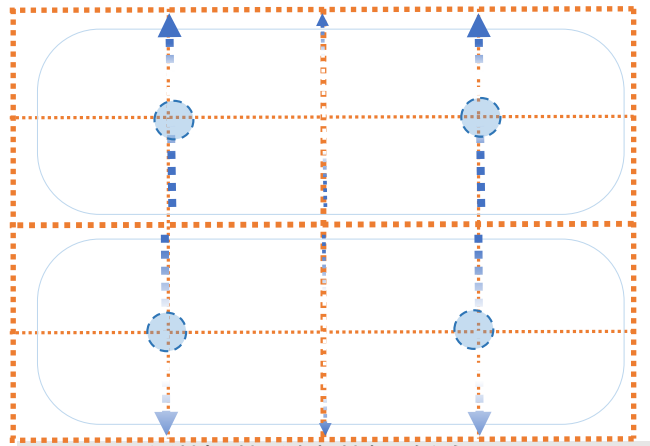
横V字型で描き、対比感を出す。尾根や岩稜などでも活用。例えば、左下部は暗部で押さえとして活用... など。



視線の出どころ、視線入力と同じ方向から「描く」こと。



集中や分散、自然のエネルギーを表現できる。空、花畑、樹木、湖面、前景にもう一步迫ることが必要です。



シンメトリック(対象・対比)な相対表現を行う。湖面などに稜線が投影している場合に活用される。画面は禁じ手の2分割となるが、この場合は論外。

放射型は見る人の視線を引き付けますね。山を自然を見て頂くために撮る。

三分割、四分割の上に、更に放射や分散の応用構図を重ねると、写真力がアップし、見応えが増します。

幾つもの構図要素が重なっている写真は良い写真！

上記の構図要素の前提に、空は一、二割に絞って配置し、光の入線方向を多めに開ける事、基本のキホンをハズなさい事が肝要です。

次